

豊田市福祉事業団事業報告

1 総括

ノーマライゼーションの基本理念に基づき、利用される方の主体性と選択性を尊重し、自立と社会参加の充実を目指した事業展開に努めました。

児童部門では、外来療育グループ「おひさま」を7月に南部へ移転開設し、土曜日療育など新たな事業を開始しました。また、のぞみ診療所への電子カルテ導入について市との最終調整、移行児支援や事業所支援の充実に加え、インクルーシブの保育実現を目指す市の人材育成のため、2人の保育士を研修生として受け入れました。

成人部門では、親亡き後に備えた成年後見制度利用への取組や、外部の関係機関や事業団内の施設間連携による就労支援の強化、利用される方の重度化や強度行動障がい等の障がい特性に配慮した支援や施設環境の整備を図りました。

事業団全体では、推進計画第2次実施計画の成果を踏まえ、第3次実施計画（26事業）を策定しました。

なお、新型コロナウイルス感染症については、職員及び利用される方への感染防止に努めるとともに、必要な支援が継続できるよう、市と協議しながら対応しました。

2 理事会・評議員会・監事会に関する事項

(1) 理事会の開催

■ 第1回理事会

日 時 令和2年4月1日

議 題 議案第 1号 常務理事の選任

■ 第2回理事会

日 時 令和2年6月4日

議 題 議案第 2号 評議員選任・解任委員の選任

議案第 3号 令和2年度第1回評議員選任・解任委員会

議案第 4号 令和元年度事業報告及び収支決算

議案第 5号 令和2年度第2回評議員会（定時評議員会）

■ 第3回理事会

日 時 令和2年6月25日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題 議案第 6号 副理事長の選定

報 告 報告第 1号 理事長及び業務執行理事の執行状況

■ 第4回理事会

日 時 令和2年11月30日

議 題 議案第 7号 職員給与規程の一部改正

議案第 8号 特定業務職員規程の一部改正

■ 第5回理事会

日 時 令和2年12月10日
場 所 けやきワークス 2階会議室
議 題 議案第 9号 令和2年度第2回評議員選任・解任委員会
議案第10号 令和2年度第3回評議員会
議案第11号 令和2年度第1次補正予算
報 告 報告第 2号 理事長及び業務執行理事の執行状況

■ 第6回理事会

日 時 令和3年3月19日
場 所 けやきワークス 2階会議室
議 題 議案第12号 特定業務職員規程の一部改正
議案第13号 令和2年度第2次補正予算
議案第14号 令和3年度事業計画
議案第15号 令和3年度予算
議案第16号 令和2年度第4回評議員会
議案第17号 職員給与規程の一部改正
議案第18号 令和3年度第1回評議員会
報 告 報告第 3号 推進計画第3次実施計画

(2) 評議員会の開催

■ 第1回評議員会

日 時 令和 2年4月1日
議 題 議案第 1号 理事の選任
議案第 2号 監事の選任

■ 第2回評議員会

日 時 令和2年6月25日
場 所 けやきワークス 2階会議室
議 題 議案第 3号 理事の選任
議案第 4号 令和元年度収支決算
報 告 報告第 1号 令和元年度事業報告

■ 第3回評議員会

日 時 令和2年12月24日
場 所 けやきワークス 2階会議室
議 題 議案第 5号 令和2年度第1次補正予算

■ 第4回評議員会

日 時 令和3年3月29日
場 所 けやきワークス 2階会議室
議 題 議案第 6号 令和2年度第2次補正予算
議案第 7号 令和3年度事業計画
議案第 8号 令和3年度予算
報 告 報告第 2号 推進計画第3次実施計画

(3) 監事会

日 時 令和2年5月28日

場 所 こども発達センター 大会議室

議 題 令和元年度事業報告及び収支決算

3 受託施設事業報告

〔1〕豊田市こども発達センター

こども発達センターは設立25周年を迎えました。発達に心配のある子どもと家族のオアシスとなるようにとの設立時と変わらぬ理念のもと、「発達支援」「家族支援」「地域支援」をキーワードに、多様な障がいに係る支援を継続しました。

前年度から懸念された新型コロナウイルスへの感染対策への検討を重ね、健康管理や消毒などの環境整備などに努め、安心・安全を確保した体制を整えて、地域の園や学校が登園自粛、休校を余儀なくされた期間にあっても途切れない支援を実施しました。

【重点目標】

- ① 「おひさま」移転に伴う組織変更や新規事業開始のほか、保育所等訪問支援の実施など、新しい組織や仕組みへの対応について重点的に取り組み、子どもたちへの発達支援のさらなる充実に努めます。
- ② 学校やこども園への移行児支援の充実、児童発達支援事業所への施設支援に加え、市の保育士に対して障がいのある子どもたちへの支援をこども発達センターで1年間学んでもらう研修制度の開始など、新たな地域支援を展開していきます。
- ③ 各施設の業務継続計画（BCP）を取りまとめ、こども発達センターの計画として整備し、災害時に対応できるよう備えます。

重点目標達成状況

- ① 外来療育「おひさま」を、地理的に支援が届きにくかった南部(和会町)に拡充移転し、令和2年7月に開所しました。土曜日クラスの設置、相談機能の併設などにより早期療育システムの新たな展開を図りました。
- ② 重症児や医療的ケア児のこども園での統合保育との協働にむけて、令和元年度の保育課への職員派遣に続き、保育課から保育士2名の派遣を受け、新たに作成した年間カリキュラムに沿ったセンターでの研修を実施しました。保育所等訪問事業の促進、巡回療育相談個票の電子データ化などニーズの高まる地域園支援の強化を図りました。
- ③ こども発達センター全体として業務継続計画（BCP）を取りまとめ、災害時に加え感染症など非災害時への対応も含めて整備しました。

(1) のぞみ診療所

障がいのある子どもたちを対象とした専門医療機関として、医療支援（診断・検査・各種療法など）を通して、発達の促進を図りました。地域の医療・教育・保育・福祉機関との連携・協力体制を推進し、更なる地域支援の充実に努めました。

【重点目標】

- ①子どもの障がいに特化した医療機関として、こども発達センター利用児とその家族への支援を行います。
- ②専門性が地域に還元されるよう、関係機関との連携や支援を継続して行い、福祉圏域内における子どもの育つ環境を改善するよう努めます。
- ③電子カルテの導入について市担当課と協議を行い、スムーズな移行に向けて関係業務を確定するなど最終調整を行います。
- ④のぞみ診療所の業務継続計画（BCP）について検討し、こども発達センター全体の計画との整合を図りながら必要な改善を行います。

重点目標達成状況

- ①感染予防対策を実施しつつ、診療、個別療法の維持と継続に努め、支援が途切れないように対応しました。
- ②外部機関への研修での講師など地域支援については年度初めには自粛していましたが、8月以降徐々に再開し、年度の後半には従来通りの役割を担いました。要望に合わせて、動画配信等の対応も行いました。
- ③電子カルテ導入にむけてコンサルタント業者、市担当課と仕様の確認を行い、予算案提出や入札に向けての準備を行いました。
- ④人事異動、契約業者変更に伴うBCPの更新と新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた災害以外の業務に大きく影響を及ぼす事態への対応について追記しました。センター全体のBCPと整合性が取れるよう必要な修正も行いました。

◇科別診療状況

診療科目	延べ人数	前年度比	初診	前年度比	個別療法	延べ人数	前年度比
児童精神科	6,353	93.4%	375	93.3%	理学療法	2,582	68.9%
小児神経科	2,877	105.5%	267	170.1%	作業療法	3,046	84.7%
小児整形外科	2,091	110.8%	72	81.8%	言語聴覚療法	3,535	79.1%
耳鼻咽喉科	336	82.0%	51	58.6%	心理療法・心理検査	1,504	93.2%
泌尿器科	66	146.7%	8	114.3%	個別療法等合計	10,667	79.4%
小児歯科	1,898	64.7%	80	142.9%	検査件数	2,865	102.7%
合計	13,621	92.0%	853	797	処方件数	7,080	105.4%
					外来栄養相談支援	160	152.4%

◇診療所受診者（実人数）

区 分	令和 2 年度		前年度比	
	初 診	再 診	初 診	再 診
医 科	642	2,894	110.5%	100.9%
歯 科	80	480	142.9%	96.2%

(2) 地域療育相談室

◆ 相談支援グループ

こども発達センターの総合窓口として、子どもの発達など家族の育児に関する各種相談支援に努めました。また、西三河北部福祉圏域のコーディネート機関として豊田市心身障がい児早期療育推進委員会の運営や、障がい児等療育支援事業を実施し、地域のこども園・幼稚園、小・中学校のほか、福祉事業所への支援の充実など一層の地域支援に努めました。

【重点目標】

- ①新たに開始する「おひさま」での相談業務の円滑な実施に向け、こども発達センター全体の相談業務体制を整備します。
- ②児童発達支援事業所等に対し、それらのニーズに沿った研修を企画・実施するとともに、連携強化を図ります。
- ③業務継続計画（BCP）をふまえ、災害時に必要な情報の収集や物品の保管方法等を検討します。

重点目標達成状況

- ①こども発達センター相談室と新設された「おひさま」相談室と協働し、南部の地域課題の抽出をしました。また、相談室分離に際して事務処理等が円滑に移行できるように随時調整を図り、利用者の問い合わせにも迅速に対応することができました。
- ②児童発達支援事業所を対象に研修会を行い、「乳幼児期の定型発達」に関する講義及び参加者と「ひまわり」「地域療育相談室」との情報交換会を設けました。
- ③豊田市こども発達センターにおける業務継続計画（BCP）を基に、部門別行動計画を作成しました。災害時に必要な情報が得られるように、相談記録等を定期的に印刷・保管しました。

◇相談件数

延べ相談件数	月平均	前年度比
5,292 件	441 件	135.5%

■ 障がい児等療育支援事業

障がい児の地域における生活と発達を支えるため、療育支援、相談等に努めました。

事業名	延べ人数等	前年度比	備考
訪問療育指導事業	22回	78.6%	訪問相談等
外来療育支援事業（わくわく）	261人	85.3%	登録者 61人
施設支援一般指導事業	481回	63.8%	講演会・事例検討会等
栄養相談	232人	119.6%	

注：訪問療育支援事業は、事業対象になっているみよし市において支援体制が整いつつあることと、新型コロナウイルス感染症の影響による事業休止のため減少

■ 巡回療育相談

地域の障がい児、療育関係者への支援及び啓発研修を実施しました。

◇事例検討

地域	対象施設	園数(延べ)	回数	対象児
豊田市	公私立こども園、私立幼稚園	146園	222回	336人
みよし市	公私立保育園、私立幼稚園	38園	38回	38人
合計 (前年度比)		184園 (91.1%)	260回 (71.2%)	374人 (62.9%)

コロナウイルス感染防止対策のため、前期の巡回療育相談は中止しました。

◇地域支援事業派遣スタッフ（延べ人数）

（単位：人・％）

	児童精神科医	小児整形 外科医	小児神経科医	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	支援員	相談員	保健師 ・看護師	歯科衛生士	管理栄養士	スタッフ合計
訪問療育	0	0	0	0	0	0	6	1	6	8	0	0	21
前期巡回相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後期巡回相談	0	0	0	4	8	15	54	14	35	9	0	0	139
随時巡回相談	0	0	0	0	0	0	7	0	8	1	0	0	16
園訪問	0	0	0	12	21	6	9	18	19	13	0	1	99
公開保育	0	0	0	0	1	1	3	4	0	0	0	0	9
研修講師	0	0	2	0	1	2	8	0	2	5	0	0	20
健診事後フォロー	2	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	18
教職員向けケース支援	1	0	0	5	6	17	47	15	20	0	0	0	111
支援会議	4	0	0	0	0	0	5	0	10	1	0	0	20
みよし市療育研修	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
みよし市療育支援	0	0	0	0	1	0	1	1	3	0	0	0	6
スタッフ合計	7	0	2	21	38	41	140	53	104	53	0	1	460
前年度比(%)	100	-	200	75.0	50.0	29.7	45.9	49.5	46.6	76.8	-	100	48.3

コロナ感染拡大防止のため、他機関への訪問支援は少人数で行いました。

■ 障がい児相談支援事業所 オアシス

障がいのある子ども及びその保護者に対し、計画相談支援及び障がい児相談支援を適切かつ円滑に実施しました。

利用計画案作成件数	本計画作成件数	モニタリング報告書件数	家庭訪問件数
184 件	195 件	84 件	10 件

注：コロナウイルス感染防止対策のため、利用者の意向に沿って家庭訪問を控えました。

(3) 保育所等訪問支援事業

通園児に対し、こども園等における集団生活適応のため訪問支援を実施しました。

施設名	契約人数	利用児延べ総人数
なのはな	14 人	63 人
たんぽぽ	7 人	32 人
ひまわり	0 人	0 人

(4) あおぞら

障がいの有無にかかわらず、発達の支援を必要とする乳幼児の親子通園療育を週 1～2 回実施し、全体的発達を促すとともに保護者への子育て支援を行いました。

【重点目標】

- ①子どもの発達や年齢に合った支援のために活動マニュアルを活用し、外来療育をより充実させるとともに、利用される方のニーズに沿った支援を行います。
- ②「おひさま」との連携を密にしながらサービスの均一性に努めるとともに、早期発見・早期療育体制について一層の充実を図ります。
- ③業務継続計画（BCP）を整理し、災害時に必要な物品の準備を行います。

重点目標達成状況

- ①活動マニュアルを基に感染症対策を考慮した活動内容を検討し、安心・安全な活動、子どもの発達や年齢に合わせた支援に努めました。
- ②新型コロナウイルス感染症対策をふまえたグループ編成や見学の受け入れ人数の上限、活動回数などについて、随時おひさまと協力しつつ進めました。またそれぞれの施設環境に応じた活動を工夫しながら行いました。
- ③災害時の業務継続に向けて職員配置を確認しました。必要となる物品を検討し、計画的に購入できるように準備を開始しました。

(5) おひさま

障がいの有無にかかわらず、発達の支援を必要とする乳幼児の親子通園療育を週1～2回実施し、全体的発達を促すとともに保護者への子育て支援を行いました。

【重点目標】

- ①7月の南部への移転に伴い、新たに開始する土曜日開催や地域共生事業に取り組みながら、利用される方や地域のニーズに沿った支援を行います。
- ②「あおぞら」との連携を密にしながらサービスの均一性に努めるとともに、早期発見・早期療育体制について一層の充実を図ります。
- ③業務継続計画（BCP）を整理し、災害時に必要な物品の準備を行います。

重点目標達成状況

- ① おひさま利用児を対象とした遊び場の提供として遊戯室、エントランス、おひさま広場の開放を行いました。また、土曜日グループの個別懇談時には相談員も同席し、園訪問などその後の連携に繋がる支援を行いました。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策をふまえたグループ編成や見学の受け入れ人数の上限、活動回数などについて、随時あおぞらと協力しつつ進めました。またそれぞれの施設環境に応じた活動を工夫しながら行いました。
- ③ 業務継続計画（BCP）のおひさま版を検討し、災害時に必要な物品を整えました。

◇あおぞら・おひさまの利用児数

	登録人数	前年度比	延べ利用人数累計	月平均	前年度比
あおぞら	390人	102.1%	7,483人	624人	74.2%
おひさま	246人	107.9%	4,973人	414人	97.9%
合計	636人	104.3%		1,038人	

◇あおぞら・おひさま利用児の年齢

施設／年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児
あおぞら	1人	158人	188人	43人	0人
おひさま	1人	109人	115人	21人	0人

注：利用児数は年度末の状況

◇あおぞら・おひさま利用児の性別

施設／性別	男	女	合計
あおぞら	272人	118人	390人
おひさま	180人	66人	246人

注：性別区分は年度末の状況

◇あおぞら・おひさま進路の状況

(単位：人)

施設/進路	こども園	私立 幼稚園	ひまわり	なのはな	たんぼぼ	託児所	家庭	転居	保健師へ依頼 (音信不通)	継続	
										あおぞら	おひさま
あおぞら	87	86	14	12	0	1	18	11	0	159	2
おひさま	61	36	9	7	0	4	3	15	0	0	111

◇おひさま相談件数

延べ相談件数	月平均	前年度比
712 件	79.1 件	—

* 令和 2 年 7 月開所

(6) なのはな (定員 30 人)

◆なのはなグループ

超早期 (0 歳) から就学前までの難聴児に対し、個々の子どもの聴力や発達に合わせた療育を行いました。

【重点目標】

- ①関係機関との連携により、なのはなの通園児や卒園児に対する人工内耳マッピングを行います。
- ②共働き世帯や乳児期からの就園増加など社会環境の変化に応じ、地域のこども園や学校に在籍する対象児への保育所等訪問支援をさらに充実させます。
- ③業務継続計画 (BCP) をふまえ、災害時における利用者対応を検討します。

重点目標達成状況

- ①人工内耳マッピングの実施に向け、あいち小児保健医療総合センターと連絡調整を行いました。新型コロナウイルス感染症のため実施できず来年度の目標としました。
- ②今年度は保育所等訪問支援を 63 回実施することができました。地域のこども園や学校との情報共有を深め、保護者のニーズに沿った支援を行いました。
- ③災害時の安全確保を図れるように、子どもの年齢別に防災学習センターでの体験を行いました。

◆ちょうちょ・とんぼグループ

個々の子どもの発達段階と障がいの特性を考慮し、保護者との愛着関係を基盤とした全体的発達を促す支援をしました。また、保護者に対して対人関係を促す適切なかわり方を伝え、着実に親子関係が育つよう支援しました。

【重点目標】

- ①個々の子どもの障がい特性や発達に合わせ、必要な保護者支援を行います。
- ②業務継続計画 (BCP) をふまえ、災害時における利用者対応を検討します。

重点目標達成状況

- ① 個々の子どもの障がい特性や発達に合わせ保護者向け勉強会を開催し、子育ての支援を充実させました。
- ② 保護者との分離時や、給食中など様々な場面での避難訓練を実施し、職員の動きを確認しました。

◇利用人員

<なのはなグループ>

契約利用者数	提供日数	延べ利用者総数	利用者通所可能延べ総数	利用率
17人	239日	708人	777人	91.1%

<ちょうちょ・とんぼグループ>

契約利用者数	提供日数	延べ利用者総数	利用者通所可能延べ総数	利用率
20人	237日	2,804人	3,264人	85.9%

注：「契約利用者数」は、施設との利用契約を締結した利用者総数

「提供日数」は、施設の開設日数

「延べ利用者総数」は、各利用者が当該期間に通所した人数の合計

「利用者通所可能延べ総数」は、各利用者が当該期間に通所可能だった日数の合計

「利用率」は、利用者が施設の開設日数のうち、どれだけ通所したかの割合
(利用率 = 延べ利用者総数 / 利用者通所可能延べ総数)

◇利用児の年齢

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
なのはなグループ	1人	2人	2人	5人	5人	2人
ちょうちょ・とんぼグループ	0人	0人	0人	20人	0人	0人

◇利用児の性別

	男	女	合計
なのはなグループ	8人	9人	17人
ちょうちょ・とんぼグループ	18人	2人	20人

◇退園後の状況

	こども園	ひまわり	小学校	特別支援学校	継続
なのはなグループ	0人	0人	2人	0人	15人
ちょうちょ・とんぼグループ	13人	7人	0人	0人	0人

(7) たんぽぽ (定員40人)

1歳から就学前までの運動発達に不自由さのある子どもに対し、個々の発達段階と心身の特性を考慮し、身体機能をはじめとする全体機能の発達を促して日常生活動作が習得できるよう支援しました。また、日々育児にあたる保護者に対し、保護者の役割と子どもとの適切なかかわりの基本が習得できるように支援しました。

【重点目標】

- ① 重度の障がいがあったり、医療的ケアが必要である並行通園児や移行児が、地域のこども園で安心・安全に過ごせるよう、保育所等訪問支援を実施します。
- ② 日頃の療育や勉強会を通じて身体機能の発達や医療的ケアなどの知識を蓄積し、地域支援に役立てます。
- ③ 業務継続計画（BCP）を整理し、災害時に必要な物品の準備を行います。

重点目標達成状況

- ① 重度の障がいのある子どもが移行した地域園や並行通園する地域園（公立3園、私立2園）に対し、のぞみ診療所と連携し、定期的な訪問による支援を行いました。また、地域園で安心・安全に保育ができるように、いつでも相談を受け入れ、即時に対応しました。
- ② 保育所等訪問支援では、療育活動で培ってきた知識や技術を地域園の保育士が園生活で実践できる方法で伝えました。今年度より始まった豊田市保育課派遣職員研修では、4～9月、2～3月にわたり、派遣保育士2名に重症心身障がいのある子どもの療育や保護者の思いについて伝えました。
- ③ 豊田市こども発達センターにおける業務継続計画（BCP）を基に、衛生用品等を用意しました。備品では吸引器が備えられ、ポータブル電源を申請しました。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	延べ利用者総数	利用者通所可能延べ総数	利用率
40人	237日	3,578人	5,934人	60.3%

注：各項目については、「なのはな」の脚注に同じ。

◇利用児の年齢

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
人数	0人	3人	12人	10人	9人	6人

◇利用児の性別

性別	男	女	合計
人数	18人	22人	40人

◇退園後の状況

進路	こども園 保育園	私立 幼稚園	ひまわり	よつば	地域 小学校	豊田特別 支援学校	三好特別 支援学校	転居	死亡	継続
人数	2人	3人	4人	1人	1人	4人	1人	1人	2人	21人

(8) ひまわり (定員 50 人)

3 歳から就学前までの知的発達がゆっくりな子どもに対し、個々の子どもの発達段階と障がい特性を考慮して、情緒の安定を図りつつ発達を支援しました。また、日々育児にあたる保護者に対し、保護者の役割と子どもとのかかわりの基本を習得し、適切な子育てができるよう支援しました。

【重点目標】

- ① 児童発達支援として、個々の子どもの発達に応じたコミュニケーションを深めるための遊びを充実させます。
- ② 卒園後に地域のこども園や小学校へ移行する子どもたちに対する支援の仕組み（移行児支援体制）を整備します。
- ③ 業務継続計画（BCP）を整備し、災害時における各種対応を整理します。

重点目標達成状況

- ① 療育で提供する絵カード、ペープサート、おもちゃを手作りし活用しました。色や大きさ、感触や揺れ、音などから子どもたちの興味を引き出し、気持ちを表現してコミュニケーションを深める遊びを充実させました。
- ② 移行児支援体制を整えるために、5 月、8 月、1 月の計 3 回職場研修を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、地域園・学校を訪問する機会が少なくなりましたが、訪問した職員から報告を受け、内容を職員に周知しました。訪問時に使用する移行児支援記録シートを見直し、3 通園共通で活用できるようにしました。
- ③ 感染症拡大防止を含め、災害時の業務継続に対応した職員配置を確認するため、職員情報を集約しました。ひまわりにおける業務継続計画（BCP）で必要となる備品を購入し、準備を開始しました。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	延べ利用者総数	利用者通所可能延べ総数	利用率
50 人	240 日	9,127 人	9,999 人	91.3%

◇利用児の年齢

年齢	3 歳児	4 歳児	5 歳児
人数	20 人	17 人	13 人

◇利用児の性別

性別	男	女	合計
人数	33 人	17 人	50 人

◇退園後の状況

進路	地域園	小学校特別支援学級	三好特別支援学校	瀬戸つばき特別支援学校	愛知教育大学付属岡崎特別支援学校	転出	継続
人数	21 人	2 人	9 人	0 人	1 人	3 人	14 人

(9) その他

■ 豊田市こども発達センター・公開セミナー

障がいに関する啓発を目的として、一般市民を対象とする年1回の市民公開セミナーを開催しています。今年度も玉井邦夫氏の講演「みんなで暮らす地域社会～発達障がい・ダウン症のある子の生活を支える～」の準備を進めていましたが、新型コロナ第2波到来による非常事態宣言発令の段階で次年度に延期しました。

■ こどもひろば利用者の状況

利用日数	延べ利用者数	1日平均	月平均	前年度比
217日	1,535人	7.1人	127.9人	129.6%

注：前年度比は延べ利用者数で算出

■ こどもひろばボランティア参加者の状況

活動日数	延べ参加人数	1日平均	月平均	前年度比
217日	949人	4.4人	79.0人	86.9%

注：前年度比は延べ参加人数で算出

■ 視察者の状況

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、こども発達センターの外部機関からの視察の受け入れを積極的に行うことは出来ませんでした。7月におひさまが和会町に開所したことに伴い、近隣地区のこども園、民生委員等の視察の受け入れを行いました。

件数	延べ人数	1団体平均	月平均
12件(内おひさま9件)	161人(内おひさま115人)	13人	13人

■ 講師派遣

関係機関からの依頼等により、研修会での講演を行いました。

派遣職種	対象者	講演内容等	回数
医師	医療関係者、教員、学生	豊田市こども発達センターの在宅支援、医療的ケア、障がい者歯科学	4回
理学・作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等	保育士、幼稚園教諭、保健師、学生、教師、保護者等	自閉スペクトラム症児の理解と支援、パニックへの対応、障がい児・者における口腔保健支援	27回
合計 (前年度比)			31回 (44.3%)

■ 豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会

設置6年目を迎え、4件の申請に対して審査しました。外部委員を交えた委員会を2回、迅速審査委員会(内部審査)を8回開催しましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、学会の中止や縮小、リモートでの開催となり、例年より申請数が少なくなりました。

■ 研究発表（学会発表）

日本発達障害学会、愛知児童青年精神医学会、豊田加茂医師会小児科医会等において3件の研究発表を行いました。

〔2〕 障がい者総合支援センター

障がいのある方の支援拠点として、日常生活や就労に関する相談や支援が総合的にできるよう、総合支援センター各施設間で必要な情報共有と連携に努めました。

【重点目標】

- ①親亡き後のために今から準備すべきことをご家族とともに考え、成年後見制度利用などの具体的な選択肢を情報提供する勉強会や、相談会を企画・開催します。
- ②就労支援と定着支援に係る連携強化として、けやきワークスと就労・生活支援センターが役割分担をして協力し合い、けやきワークスを利用される方の就労におけるサポート体制を推進します。
- ③第二ひまわりと暖の利用者の重度化に対応するため、利用者を安全に支援できる活動時間と活動プログラムを見直します。
- ④大規模災害の発生を想定し、初動対応のためのスターターキットの案を作成します。

重点目標達成状況

- ① 成年後見支援センターのアドバイザーを講師に招き、「成年後見制度って本当のところどうなの？」をテーマに勉強会を開催しました。今年度は通所施設利用者の方のご家族のうち60代から70代の方を主な対象とし、昨年度同様の少人数座談会形式で、個々の疑問を解決しながら、具体的な選択肢を整理することができました。
- ② けやきワークス就労移行支援事業所の利用者勉強会において、就労・生活支援センター職員が講師となり、就労前の準備についての講習を4回行いました。また、関係機関との情報共有を図りながら、けやきワークス利用者の方12名への就職支援、定着支援や職場実習、相談支援を行いました。
- ③ 保護者へアンケート調査を実施し、活動時間の意見をまとめました。利用者の重度化に対応するため、身体機能や障がい特性に合わせたウォーキング活動グループの編成や、食事環境の見直しを行いました。
- ④ 大規模災害発生直後から3時間程度の間に必要な初動対応の手順や物資について、時系列に記載した「スターターキット案」を作成しました。

（1） 就労・生活支援センター

障がいのある方が地域で自立した生活ができるよう、総合的な支援を行うとともに、就労支援については、けやきワークス等の就労支援事業所や特別支援学校等の関係機関と連携して一般就労を推進しました。また、国・県の「障害者就業・生活支援センター事業」を受託し、みよし市も含めた西三河北部圏域における就労支援の拡充を図りました。

【重点目標】

- ①労働機関、医療機関、福祉機関、教育機関など関係機関との連携を進め、就労へ向けた基盤の整備、生活支援の充実を図ります。
- ②「障がいのある方と共に働くこと」をテーマに、企業の要望に沿った社員向け企業内研修等を立案段階から関わって実施し、企業の障がい者雇用への理解と就労定着を促進します。

重点目標達成状況

- ①豊田公共職業安定所と協同で職場開拓を行い、2 企業で各 1 名ずつが雇用となりました。医療機関との連携では、受診同行やリワーク（復職）支援を行いました。また、アイネス（愛知県障害者就業・生活支援センター連絡協議会）の依頼により、愛知医科大学病院難病医療ネットワーク推進事業にて「難病の方の就労支援、両立支援に関する事例提供」の講演を行いました。教育機関との連携では、就労を予定している特別支援学校等在校生 32 名の登録面談や追指導を行いました。行政機関との連携では、障がい福祉課との共催で「成人期における発達障がい者の就労支援」をテーマに、福祉相談に関わる採用 1～3 年目程度の市職員 19 名に対して研修会を行いました。
- ②企業の障がい者就労担当者からの要請により、障がいのある方が配属されている部署にて、職場における障がい者理解のために「障がいのある方の定着支援」をテーマにした企業内研修会を他機関と共催で行いました。また、みよし市自立支援協議会との共催で、圏域内（豊田市、みよし市）の企業向けに「障がい者雇用支援セミナー」を開催し、障がい者雇用の推進を図りました。

◇関係機関協働事業

事業名	事業内容
企業内研修 (社員向け)	「障がいのある方の定着支援」 ・みよしはたらく相談センター、みどりがおかコスモス共催 ■7月22日20名 ■3月18日40名 (Web 開催)
障がい者雇用 支援セミナー	「発達障がいとうつについて 就労継続困難な方の事例と対応、支援機関について」講演会及び事例検討 ・豊田公共職業安定所、みよしはたらく相談センターとの共催 ■2月25日 参加企業9社 (Web 開催)

◇人材育成研修事業

事業名	事業内容
発達障がい者 支援者研修	「成人期における発達障がい者の就労支援」 ・講演会及びグループワーク・市障がい福祉課との共催 ■2月26日 豊田市職員19名、就労移行支援事業所4名参加

◇総合相談事業

事業名	実績
総合相談窓口	相談件数 4,131 件 新規登録者数 119 人 (身体 16 人、知的 49 人、精神 37 人、その他 17 人)

◇就労支援事業

事業名	実績
職場開拓	91 社、401 回訪問 就労者 71 人 (身体 12 人、知的 41 人、精神 10 人、その他 8 人； うち、みよし市 2 人、圏域外 7 人)
企業訪問等による障がい者支援	企業訪問 532 件

(2) けやきワークス (定員 50 人)

おおむね 18 歳以上で身体障がい・知的障がいのある方を対象に支援しました。就労移行支援では、個々に合わせたプログラムにより、一般就労に向けたコミュニケーションや言葉遣い、軽作業及び接客等についての知識・技術の習得を図り、就労継続支援では、充実した社会生活が送れるよう個々に合わせた就労や生産活動の機会を提供しました。

【重点目標】

- ①新商品の開発や販路の拡大を推進することで収益と工賃のアップにつなげます。また、お客様へのサービス向上や重度化等の実状に即した利用者支援を実施します。
- ②多様な障がい特性に合わせた就労移行支援を実施し、就労移行率を向上させるとともに、就労移行支援プログラムの見直しを図りながら、そのノウハウを他事業所支援に活かします。
- ③若年性認知症の方の就労支援に関するニーズの把握や知識・情報の集積を行います。

重点目標達成状況

- ① 新型コロナウイルス感染症の流行により、売上げが大きく落ち込みましたが、マスクやマスクケース、エコバックといった新商品を開発し、自主製品やパンの販路を拡大させ、経営努力を続けました。また、トイレ介助や服薬介助が必要となった利用者の方に対しては、柔軟に支援を実施しました。
- ② 知的障がいや発達障がい、高次脳機能障がいのある方等への就労移行支援を実施しました。個別の支援プログラムや合同の就労移行支援プログラムを行う中で、4 名の方が一般就労しました。また、2 つの事業所からの依頼を受けて講師を派遣し、SST 技法を用いた支援をテーマにした研修会を実施しました。
- ③ 市内における若年性認知症の方の就労に関するニーズについて情報収集したり、若年性認知症の方の現状と社会参加をテーマにした研修会に参加しました。

◇利用人員

事業	契約利用者数	提供日数	延べ利用者総数	利用者通所可能延べ総数	利用率
就労移行支援事業	12人	240日	1,857人	2,064人	90.0%
就労継続支援事業B型	38人	240日	8,118人	8,979人	90.4%

注：「契約利用者数」は、施設との利用契約を締結した利用者総数

「提供日数」は、施設の開設日数

「延べ利用者総数」は、各利用者が当該期間に通所した人数の合計

「利用者通所可能延べ総数」は、各利用者が当該期間に通所可能だった日数の合計

「利用率」は、利用者が施設の開設日数のうち、どれだけ通所したかの割合

(利用率 = 延べ利用者総数 / 利用者通所可能延べ総数)

「年齢」「性別」「障がい者手帳保持状況」「障がい支援区分」「利用中止の状況」は、令和3年3月31日現在

「障がい者手帳保持状況」の療育手帳と身体障がい者手帳は重複あり

◇利用者の年齢

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	平均年齢
就労移行支援事業	3人	2人	0人	0人	2人	30.3歳
就労継続支援事業B型	0人	4人	12人	10人	11人	41.3歳

◇利用者の性別

性別	男	女	合計
就労移行支援事業	3人	4人	7人
就労継続支援事業B型	22人	15人	37人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳				精神障がい者 保健福祉手帳
	A判定	B判定	C判定	1級	2級	3級	4級	1・2級
就労移行支援事業	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	各1人
就労継続支援事業B型	11人	10人	3人	7人	4人	6人	1人	0人

◇利用中止の状況

中止の理由	在宅	就職	その他	計
就労移行支援事業	0人	4人	1人	5人
就労継続支援事業B型	0人	0人	2人	2人

(3) 第二ひまわり（定員70人）

おおむね18歳以上の知的障がいのある方を対象に、一人ひとりの能力や個性にあった活動に取り組み、日々の生活の充実と社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- ① 強度行動障がいのある方たちの行動特性を把握し、一人ひとりの個性や強みが活かせる支援を検討するためのアセスメントシートの見直しを行います。
- ② 支援が必要な方の数が増加し、日中活動場所の確保が難しくなっていく中、重度障がいのある方が安心して日中生活を過ごせるように、関係機関と連携して支援策を検討します。令和2年度は、国の支援者養成研修を参考にした強度行動障がいの方の支援者養成研修プログラムの豊田市版を立案します。

重点目標達成状況

- ①利用者理解を深めるために必要な情報を整理しなおし、第二ひまわり利用者の一人ひとりの個性や特性が把握しやすいアセスメントシートを作成しました。
- ②豊田市内に強度行動障がいのある方々の支援を行える人材育成するため、令和3年度開催予定の強度行動障がい支援者養成研修のカリキュラム案と、支援者派遣事業の内容検討を行いました。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	延べ利用者総数	利用者通所可能延べ総数	利用率
69人	240日	14,013人	15,416人	90.9%

注：各項目については、「けやきワークス」の脚注に同じ。

◇利用者の年齢・性別

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	平均年齢	男	女
人数	3人	13人	16人	24人	6人	1人	37.6歳	47人	16人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳		身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	62人	1人	4人	3人	0人	1人	0人	0人

◇障がい支援区分

区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当
人数	29人	25人	9人	0人	0人	0人	0人

◇利用中止の状況

種別	通所施設	グループホーム (日中支援型)	障がい者支援施設	死亡	家庭	計
人数	0人	5人	1人	0人	0人	6人

(4) 暖 (定員 36 人)

おおむね 18 歳以上の重症心身障がいのある方を対象とした生活介護事業として、日中活動を通して、健康状態を保ち充実した毎日が過ごせるよう支援し、社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- ①利用される方の小さなサインや日々の細かな変化を捉え、職員間で情報共有し、気持ちに寄り添った支援に努めます。重症心身障がいの方一人ひとりが、無理なく安心して楽しめる活動を提供します。
- ② 24 時間の生活を意識した支援に努めます。利用者、家族の状況の変化に応じ、また、今後の生活を見通し、関係機関と連携を図り、家族の負担や不安が軽減できるよう支援します。

重点目標達成状況

- ①表情や仕草から意思を汲み取り、好きな活動や役割を見つけ、楽しく利用していただけるよう支援をしました。また、加齢に伴う変化など、予想される状態について、医療職と支援員・介護員が情報を共有し、重症化を加速させない対応ができました。
- ②面談や家庭訪問で、暖以外での生活の様子やご家族の意向を聴き取り、利用される方の暮らしを把握して支援しました。また、暮らしの場（自宅、グループホーム、医療対応住宅型有料老人ホームなど）に応じた連絡方法を検討し、必要な情報をタイムリーに共有し、支援の連携を進めました。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	利用者延べ総数	利用者通所可能延べ総数	利用率
31 人	240 日	5,740 人	6,227 人	92.2%

注：各項目については、「けやきワークス」の脚注に同じ。

◇利用者の年齢等

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	平均年齢	男	女
人数	2 人	5 人	10 人	12 人	0 人	35.8 歳	13 人	16 人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	C判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	28 人	0 人	1 人	20 人	6 人	3 人	0 人	0 人	0 人

◇医療的ケア必要者（※実人数は 13 人）

ケアの種類	酸素療法	吸入	人工呼吸器	気管切開の管理	喀痰吸引	経管栄養	導尿	血圧管理
人数	1 人	3 人	2 人	2 人	8 人	10 人	2 人	1 人

◇障がい支援区分

区分	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当
人数	29 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

◇利用中止の状況

種別	通所施設	入所施設	死亡	家庭	計
人数	0 人	0 人	2 人	0 人	2 人

(5) グループホーム喜多ハウス（定員 7 人）

就労等日中活動の場が確保されている知的障がいのある方に、地域での普通の生活を提供するとともに、個々の生活上の相談に応じた支援を実施しました。

【重点目標】

- ①利用される方の主体的な生活を支援するにあたり、相談支援事業所のサービス等利用計画と連動した支援計画立案のため、個別支援計画の様式を改訂します。
- ②生活の状況や変化に応じて、利用される方を支援する関係機関との情報交換の機会を設定し、障がい特性と支援方法の共通認識を持ち、相互に協力した包括的な支援を行います。

重点目標達成状況

- ①個別支援計画の様式を改訂し、相談支援事業所のサービス等利用計画と連動した支援計画を立案しました。立案した計画を入居者の方と確認し合い、個々の状況に応じて、金銭管理や通勤支援、買い物、調理実習等について支援を行いました。
- ②脳疾患により緊急入院をされた入居者の方について、退院後も安心して暮らしていただくために、身体の回復状態に応じた住環境を検討し、日中も支援が受けられるグループホームへの転居支援を行いました。また、他の入居者の方に対しては、生活や職場で必要な支援について勤務先や関係機関と情報共有し、退職後の就労移行支援事業所利用や余暇活動のための移動支援事業所利用等、福祉サービスの利用支援を行いました。

(6) たよりん

総合支援センターの各通所施設利用者の方を主な対象とした指定特定相談支援事業として、重症心身障がいや強度行動障がいのある方への支援の専門性を活かし、その人らしい生活を応援できるよう関係機関との連携を図り、障がい福祉サービスの調整をしました。

【重点目標】

- ①当事者の困りごとを豊田市の地域課題として整理し、自立支援協議会において他事業所と連携しながら解決策を検討します。
- ②医療型短期入所・レスパイト事業のコーディネーターの役割を担い、介護者負担軽減事業を進めるとともに、重症心身障がいのある方の包括的支援体制の構築に向け、関係機関の協力を得ながら試行と検証を行います。

重点目標達成状況

- ①関係事業所と報告・連絡・相談を密に行いながら、計画相談を実施しました。親亡き後を見越し、サービス利用が困難な事例をまとめ、自立支援協議会サポート連絡会に課題提起しました。
- ②医療型短期入所・レスパイト事業について、関係機関との顔の見える関係づくりと情報共有に努め、医療型短期入所の利用枠を広げることができました。また、新たに利用される方に対しては、不安が軽減できるよう、初回利用までの支援を丁寧に実施しました。

利用計画案作成	本計画作成	モニタリング報告書	基本相談	サービス利用調整
164件	167件	237件	701件	116件

(7) その他

ア 視察者の状況

通園施設を利用されている保護者の方、企業の障がい者雇用担当者の方、市の保健師の方などの視察を受け入れました。

件数	延べ人数	1団体平均	月平均
5件	67人	13.4人	5.6人

イ 講師派遣

関係機関からの依頼などにより、研修会での講演や事業所支援等を行いました。

派遣職種	対象者	講演内容等	件数
支援員、就労支援員	施設職員、市職員、一般企業、学生、保護者等	障がい特性と支援、福祉の仕事、障がい者雇用について等	20件
看護師、理学療法士、作業療法士	施設職員、教員、訪問看護師、保護者等	障がい特性、食事や姿勢運動機能の基礎知識、介助方法等	20件
合計			40件

4 事務局

(1) 総務担当

安定した法人運営を図るため、有能な人材確保とともに、階層別研修等の実施による人材育成方針の具体化など、効率的な運営と経営基盤の強化に努めました。

【重点目標】

- ①限られた人員の中で、利用される方へのサービス提供を低下させることのないよう、安定的な組織運営を目指した優秀な人材の確保に努めます。また、財務、税務等の専門性向上のための検討を行い、経営基盤の強化を図ります。
- ②平成29年度に策定した階層別研修体系に基づく階層別研修が、実施3年目を迎えるため、階層別期待人材像育成の効果を検証し、次年度以降の研修実施方法について必要な見直しを行います。
- ③平成31年4月施行の働き方改革関連法（改正労働基準法）による年5日間の年次有給休暇取得義務、時間外労働の上限規制等を遵守する仕組みを整備するとともに、多様で柔軟な働きやすい労働環境の整備に努めます。
- ④大規模災害等の発生に備え、事業団全体の業務継続計画（BCP）を集約・検証して実効性を確保するとともに、事業団非常配備体制の再検討を行います。

重点目標達成状況

- ① 安定的な組織運営を行えるよう必要な人員等を調整した上で、人員確保のため採用選考を複数回実施しました。また、ホームページやハローワーク求人票への掲載のほか、大学へ求人を依頼するなど人材確保に努めました。
- ② 新型コロナウイルスの影響下であっても感染状況等を見極め、指定研修・管理職養成研修へ職員を参加させ人材育成に努めました。また、研修の実施方法の見直しとしてweb講座などへの参加方法を検討しました。
- ③ 働き方改革関連法に基づき、改正内容を職員に周知し働きやすい労働環境になるよう努めました。
- ④ 新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、職員の出勤の取り扱いを整理し、職員の感染防止に努めました。また、両センターの業務継続契約（BCP）の整備状況を確認しました。

(2) 管理担当

事業団各施設に安全で質の高い給食を提供するとともに、食育支援に努めました。

こども発達センターを利用される方に快適に利用してもらえよう、施設の環境を整えました。

【重点目標】

- ①利用者が安心安全に利用できるよう、おひさまの施設管理を支援します。
- ②電子カルテ導入に向けて、のぞみ診療所の収益を検証し、行政と連携して導入準備をします。
- ③厨房の業務継続計画を整えるとともに、災害用備蓄食品の充実と職員に分かりやすい表示方法を検討します。

重点目標達成状況

- ① おひさまの開所に伴う施設管理に関し、発達センターの施設管理（業務委託等も含め）参考として支援を行い、次年度以降の運営につなぐことができました。
- ② のぞみ診療所の電子カルテ導入について、実現可能な仕様にするため行政と連携し、のぞみ診療所との調整を行い、入札に向けた準備を整えることができました。
- ③ 厨房の業務継続計画を更新しました。施設利用者の特性に合わせ災害用備蓄食品の種類と量を増やし、こども発達センターにおいては、災害用備蓄食品の保管場所を誰でも分かるように表示をしました。

5 実習等の受け入れ

関係機関からの要請に応じ、大学生、専門学校生、教師、市職員等の実習及び、児童・生徒の福祉体験学習等の受け入れを行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実習される方に2週間前からの体調と行動の記録を提出してもらうなど、必要な感染対策を講じた上で受け入れをしました。小学生、中学生の福祉学習は、けやきワークスでのみ受け入れました。

■ 体験学習・福祉学習

学 校	人数	日数	受 入 施 設
小学校（朝日小学校）	7人	1日	けやきワークス
中学校（崇化館・朝日ヶ丘中学校）	5人	3日	けやきワークス
特別支援学校（豊田特支校等3校）	11人	25日	第二ひまわり、けやきワークス、暖
合 計 （前年度比）	23人 (14.1%)	29日 (34.9%)	

■ 実習・研修

職種	学校・団体名	人数	受入れ日数
医師・臨床心理士	愛知教育大学・愛知県医療療育総合センター・刈谷病院・あらかわ医院・トヨタ記念病院・平安通クリニック・ファミリーメンタルクリニック	70人	54日
看護師	豊田訪問看護師育成センター	12人	4日
歯科衛生士	慈恵歯科医療ファッション専門学校	30人	2日
理学療法士	東名古屋病院附属リハビリテーション学院	2人	5日
作業療法士	東名古屋病院附属リハビリテーション学院	1人	5日
言語聴覚士	日本福祉大学中央福祉専門学校	1人	31日
社会福祉士	日本福祉大学、東海医療科学専門学校	3人	72日
教員・教諭	愛知教育大学	8人	1日
保育士	市保育課(加配保育士、3年目保育士)、みよし市通園施設	140人	12日
職員研修	教諭、保育士、キャリアセンター利用者等	12人	6日
合 計 (前年度比)		279人 (52.3%)	192日 (46.9%)

(内訳)

■ 実習・研修(発達センター)			
職種	学校・団体名	人数	受入れ日数
医師・臨床心理士	愛知教育大学・愛知県医療療育総合センター・刈谷病院・あらかわ医院・トヨタ記念病院・平安通クリニック・ファミリーメンタルクリニック	56人	52日
看護師	豊田訪問看護師育成センター	4人	1日
歯科衛生士	慈恵歯科医療ファッション専門学校	30人	2日
理学療法士	東名古屋病院附属リハビリテーション学院	2人	5日
作業療法士	東名古屋病院附属リハビリテーション学院	1人	5日
言語療法士	日本福祉大学中央福祉専門学校	1人	31日
教員・教諭	愛知教育大学	8人	1日
保育士	3年目保育士、加配保育士、愛知県立大学、至学館大学、日本福祉大学、名古屋女子短期大学	140人	12日
合 計		242人	109日

■ 実習・研修（総合支援センター）			
職種	学校・団体名	人数	受入れ日数
臨床心理士	愛知教育大学	14人	2日
看護師	豊田訪問看護師育成センター	8人	3日
社会福祉士	日本福祉大学、東海医療科学専門学校	3人	72日
職員研修	教諭、保育士、キャリアセンター利用者 等	12人	6日
合 計		37人	83日

6 ボランティア活動

今年度も多数のボランティアのご協力をいただきました。

活動施設	活動内容	活動回数	延べ活動人数	活動団体・個人
こどもひろば (再掲)	園児等の兄弟姉妹の託児	217回	1,535人	学生、個人他
あおぞら	親子分離時のこどもの託児	29回	80人	ボランティアグループ とまと
おひさま	親子分離時のこどもの託児	24回	71人	ボランティアグループ とまと
たんぽぽ	保護者勉強会講師、利用児の 整髪等	7回	12人	卒園児保護者、 美容ボランティア
ひまわり	保護者勉強会、保護者施設見 学時の兄弟姉妹の託児	8回	40人	卒園児保護者等
	ひまわり療育内あそび援助	4回	32人	豊田東高校
第二ひまわり	利用者の活動援助、除草作業	2回	7人	個人、 崇化館地区民生委員
けやきワークス	花の苗植え	1回	6人	梅坪ブロックPTA
合 計 (前年度比)		292回 (56.6%)	1,783人 (91.3%)	